

令和3年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	特定非営利活動法人劇場創造ネットワーク	
施 設 名	杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	27,938	(千円)
	公 演 事 業	22,806 (千円)
	人 材 養 成 事 業	1,617 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	3,515 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	世界をみよう! ※	令和3年7月17日～ 25日	『ピン・ポン』 演出：佐藤信、tupera tupera、竹屋啓子 出演：公門美佳、久保恒雄、光田圭亮、音楽演奏：磯田収	目標値	1,292
		座・高円寺	『ひとり、ひとり』 演出・出演：目黒陽介 出演：安岡あこ	実績値	808※
2	劇場へいこう! ※	令和3年9月2日～ 10月7日	『フランドン農学校の豚～注文の多いオマケ付き～』 原作：宮沢賢治 上演台本：佃典彦 演出：西沢栄治 出演：宮島岳史、他	目標値	5,445
		座・高円寺、他	『ピノッキオ』 原作：カルロ・コッローディ 脚本・演出：テレーサ・ルドヴィコ 出演：高田恵篤、辻田暁他	実績値	2,683※
3	男たちの中で ※	令和3年10月22日 ～31日	原作：エドワード・ボンド 上演台本・演出：佐藤信 出演：松田慎也、服部吉次、大森博史 他	目標値	1,022
		座・高円寺		実績値	746※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	座・高円寺ダンスアワードⅡ ※	令和3年4月2日~4日	参加作品：尚美学園大学(1)、天理大学(2)、過去の参加者の作品(3) アーティストック・ディレクター：竹屋啓子、アソシエート・アーティスト：田村一行	目標値	190
		座・高円寺		実績値	164

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	遊ぼうよ! ※	令和3年4月～令和4年3月	〈みんなのリトル高円寺〉 監修：香坂奈々、古賀彰吾、他 〈絵本の旅@カフェ〉 〈みんなの作業場〉 講師：色彩亭朝輔、篠川理湖、他	目標値	4,500
		座・高円寺、他		実績値	2,394※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

杉並区立杉並芸術館「座・高円寺」（以下、座・高円寺という）は、「杉並区基本構想」で掲げるビジョンのうち、1）地域における多様なつながりの中で心豊かで自立心を持った「次代を担う人」を育むまちを築く 2）地域の特性を活かし、将来を見据えた産業の振興や経済活動の活性化 3）誰もが文化・芸術や生涯学習・スポーツに親しむことのできる環境の整備 4）文化芸術の振興を図るとともに、多様な文化が共存・発展する共生社会を築く の4点に基づき、人のにぎわいの絶えない「暮らしとともにある劇場」として、1）舞台芸術をつくる 2）観客とつながる 3）町とつながる 4）人とつながる の4つを施策とし、舞台芸術を中心に据えた事業を展開しています。

本助成事業は、それぞれ上記の施策に基づき、適切に組み立てられており、特に、乳幼児から小中高生（「世界をみよう！」「劇場へいこう！」「遊ぼうよ！」・大学生（「座・高円寺ダンスアワードⅡ」）といった次代を担う世代の育成を主軸としています。

令和2年度に続いて、本年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けましたが、昨年度の経験を活かし、事業を中止することなく、継続的な実施へ向けての取り組みを行いました。

具体的には、以下の通りです。

- ・「世界をみよう！」では、海外カンパニー3作品の来日がかかわらず、国内の作品を1作品加えて開催しました。
- ・「劇場へいこう！」では、緊急事態宣言下であったため、公共交通機関を利用する学校が来られず、公演回数が予定より減少しました。
- ・「男たちの中で」では、経過措置期間のため、客席数を減らして上演しました。
- ・「座・高円寺ダンスアワードⅡ」では、来日のかなわなかった国立台北芸術大学の学生の作品にかえて、過去に当該事業に参加し現在はプロとして活動している3名の作品を招待し、「特別編」として開催しました。
- ・「絵本の旅@カフェ（遊ぼうよ!）」では、対面ではなく、電話で絵本を読む「絵本の旅もしもし便」として開催しました。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

「世界をみよう！」では、未就学の子どもの持つ家庭が親子で一緒に舞台作品をみる機会の提供、「劇場へいこう！」では、子どもとおとなが一緒に楽しめる質の高い舞台作品の創造及び鑑賞の機会の提供、「男たちの中で」では、世界的に重要な作家の日本初演となる作品の上演、「座・高円寺ダンスアワードⅡ」では、舞踊家を目指す大学生の支援、「遊ぼうよ！」では、地域の子どもたちが年齢や学校を超えて交流し創造力をはぐくむ場の提供、を行い、劇場が年間を通して、学校と家庭と地域をつなぐ役割を果たしました。

「劇場へいこう！」では、小学校の団体鑑賞の際に公演後に行ったトークに関して、先生から「照明や音響などの仕事についても触れていただき、キャリア教育としてもいい経験となった」との感想をいただくなど、観劇体験の持つ幅広い意義を改めて実感しました。また、助成により参加費やチケット料金を安価（または無料）に抑えることで、特に子育て中の家庭や学生の経済的な負担を軽減することができました。以上のことにより、助成に値する文化的、社会的、経済的意義を継続して認められると考えます。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

「実績報告書」の「目標及び指標の達成状況」に記載してある目標について、定量と定性に分けて分析してみると、定量的目標として掲げた全 10 項目のうち、「達成した」2 項目、「もう一息」2 項目、「達成しなかった」6 項目、定性的目標として掲げた全 2 項目のうち、「達成した」2 項目という結果となりました。

#### ○入場者数について

「世界をみよう!」「劇場へいこう!」「リトル高円寺(遊ぼうよ!)」では、コロナ禍以前の令和元年度と同等の入場者数を目標に掲げていましたが、感染症の拡大は令和 3 年度も収まらず、緊急事態措置または経過措置期間での事業実施となり、目標の達成は難しい状況にありました。具体的な要因は以下の通りです。

- ・「世界をみよう!」では、海外カンパニーが来日できなかったことによる公演数の減少とガイドラインに従った収容人数の制限の影響を受けました。
- ・「劇場へいこう!」では、緊急事態宣言下であったため、公共交通機関を利用する学校が来られず、公演回数が予定より減少しました。
- ・「リトル高円寺」では、感染症対策として、子どもたちが長い時間同じ空間にいないよう、時間による入替制を導入したため、入場者総数が減少しました。

#### ○学生の集客について

「男たちの中で」では、学生の入場率をコロナ禍以前の令和元年度と同等まで回復することを目標としており、達成することができました。令和 3 年度は大学の先生だけでなく、若者への観劇を促進している団体と連携したことが、幅広い学生への周知に繋がったのではないかと思います。引き続き若い世代へのアプローチの方法を増やしていくことが課題として挙げられます。

#### ○小学校の団体鑑賞について

コロナ禍以前のような全校(40校)参加を目標としていましたが、緊急事態宣言下であったため、公共交通機関を利用する学校が来られず、14校の参加となりました。最終的な判断は学校に委ねていましたが、コロナ禍で来場した学校がこれほどあったことは、杉並区では観劇が教育課程に根づき、教育的効果が認知されている証ではないかと考えます。

#### ○必要とされるプログラムの提供について

「世界をみよう!」「劇場へいこう!」は地域の子どもや親子にとって、「座・高円寺ダンスアワードⅡ」は学生にとって、それぞれ必要なプログラムとなっているか、アンケートを参考に分析しました。「世界をみよう!」では、「少しずつ成長する娘と毎年来たいと思う」「子どもが保育園でリーフレットをいただいて以来 10 年近く見てきました。すぐ近くに住んで芸術家の動きを見られる幸せを味わいました」、「座・高円寺ダンスアワードⅡ」では、「現在活躍されている方のアドバイスをいただけて大変勉強になりました」などの意見が寄せられ、継続して行うに値するプログラムになっていると考えます。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

##### ○事業期間について

令和2年度の経験を活かし、感染症対策の周知や実施方法などを工夫することで、おおむね当初の計画通りに進みましたが、感染症拡大の影響を受けた事業もありました。詳細は以下のとおりです。

- ・「世界をみよう！」： 海外カンパニー3作品の来日がかかわらず、国内の作品を1作品加えて開催しました。そのため、3週間の予定を2週間に短縮して行いました。
- ・「劇場へいこう！」： 緊急事態宣言下であったため、公共交通機関を利用する学校が来られず、公演回数が予定より減少しましたが、全体の事業期間としては、計画通りに進みしました。
- ・「男たちの中で」： 計画通りの期間で開催しました。
- ・「座・高円寺ダンスアワードⅡ」： 計画通りの期間で開催しました。
- ・「遊ぼうよ！」： 計画通りの期間で開催しました。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業費は適切に積算され、おおむね当初の計画通りに進みましたが、感染症拡大の影響を受け、当初予算より減少した事業もありました。詳細は以下のとおりです。

- ・「世界をみよう！」： 海外カンパニー3作品の来日がかかわなかったため、その分の渡航費、出演料、日当、宿泊費の支出が減少しました。代わりに追加した国内のアーティストと制作した作品のための支出が増加しましたが、事業費全体としては減少しました。
- ・「劇場へいこう！」： おおむね計画通り進みしました。
- ・「男たちの中で」： おおむね計画通り進みしました。
- ・「座・高円寺ダンスアワードⅡ」： 国立台北芸術大学の学生と先生の来日がかかわなかったため、その分の日当、宿泊費の支出が減少しました。代わりに招待した過去に当該事業に参加した国内アーティストによる3作品のための支出が増加しましたが、事業費全体としては減少しました。
- ・「遊ぼうよ！」： おおむね計画通り進みしました。

適切な事業費の計上や収入を増やす努力が必要なのは言うまでもありませんが、未来を担う次世代の育成を目指す本助成事業では、いわゆる費用対効果の考え方による効率性だけではなく、事業の公共的な役割に対する理解や先行投資的な考え方と、長期的にみた社会的な効果の測定も重要だと考えています。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### ○劇場・音楽堂等を象徴する人物の存在

芸術監督が質的責任、技術監督が技術的な責任、館長が経済的責任をとる体制のもと、制作・広報・技術の各分野の専門スタッフが緊密な連携を取りながら最大限の能力を発揮し、アーティストと来場者に対して誠実に事業を行うことで、事業を円滑に運営することができました。

大学生のためのダンスプログラム「座・高円寺ダンスアワードⅡ」では、座・高円寺の滞在中に振付・照明・音響のプロのスタッフのアドバイスを受けながら、自分たちの作品を再創造して最終日に上演しました。参加した学生からは「普段扱うことのできない照明や音響、その意義、アレンジや新しい発見がおもしろかったです。今年の経験を活かし、照明や音響についても学んでいきたい」などの感想が寄せられ、劇場の持つソフトの力が時代を担う人材の育成に貢献していると考えます。

#### ○提携・協力団体との連携

設置者である杉並区や杉並区教育委員会をはじめとし、杉並区とパートナーシップを結んでいる東京高円寺阿波おどり振興協会と日本劇作家協会、地域の団体（高円寺商店街連合会、他）、近隣の子ども関係の団体（目黒子ども劇場、せたがや子ども劇場、他）や、学校（保育園、幼稚園、子供園、小学校、中学校、高等学校、大学、専門学校）、地方の劇場（茅野市民館、茅ヶ崎市民文化会館、他）や、海外の団体（イタリア文化会館、他）などさまざまな分野の団体から、事業の周知、経済的支援、間接的支援など多大な協力をいただき、多くの地域のみなさんに足を運んでもらうことができました。

「劇場へいこう！」では、昨年は教育委員会の判断により、早い段階で全校一律観劇中止が決定しましたが、今年是最終的な判断を学校側に委ねたところ、学校独自の予算で貸し切りバスを手配して来館した学校もあり、生の舞台芸術を観ることの重要性が教育の現場でも徐々に認識され、当館が地域の文化拠点としての役割を果たしていると考えます。

#### ○安全確保の取り組み

昨年に引き続き、全国公立文化施設協会によって定められた「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン改訂版」に従い、安心して観劇できるよう、感染の予防に取り組みました。

・出演者やスタッフは、毎日入館時にサーモグラフィカメラによる検温と消毒マットによる靴裏の消毒を実施するとともに、マスク着用、こまめな手洗い、消毒液による手の消毒を励行し、稽古開始 2 週間前から健康管理に努めました。発熱等の体調不良に陥った場合は、速やかに申し出るなど、二次感染防止に努めました。

・けいこ場では、適宜手指の消毒ができるよう、要所に消毒液を設置。空調設備、空気清浄機の運転に加え、ドアの開放をするなど常に換気を行いました。原則として全員マスクを着用。稽古スケジュールを工夫するなどして、けいこ場内が密にならないよう努めました。楽屋もけいこ場に準じた対応を行いました。

・本番に係わる出演者やスタッフは、本番前に PCR 検査を受け陰性を確認しました。

「劇場へいこう！」で観劇の引率の先生からは、「感染症対策をしっかり行っていただいたことで安心して鑑賞することができた」との意見が寄せられました。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

### ○全世代が観られる重層的な作品づくり

「劇場へいこう！」では、子どもとおとなが一緒に楽しめる質の高い舞台作品2作品を創造し、鑑賞の機会を提供しました。

『フランドン農学校の豚～注文の多いオマケ付き』では、「死や命をいただくということや宮沢賢治についても考えるきっかけになったと思います」「命を大切に、命をいただくことについて考えていたように思います」「もったいない、世界の国々では飢えている子どももいて、SDGsが…などと言っているより、この物語を一度観る方が、どれだけ意味があることかしかない」

『ピノッキオ』では、「人の欲や世の中の残酷さなども前面に押し出された作品で、（子どもたちにとって）演劇の面白さ、奥深さを感じることができた、すばらしい時間となった」「一本の木からひとりの人間に成長するためにはいろいろな経験、まわりからの支えが必要だということを伝えるよい作品だと思います」「これは多くの大人がみるべきだと思った、見て心が解放された」

といった感想が寄せられました。子どももおとなも一緒に見て、単に楽しむだけでなく自分たちのおかれている環境や社会について、それぞれの視点で考える機会となるような重層的な作品を提供できていると考えます。

### ○レパートリー作品の上演

座・高円寺では、創造した作品を打ち上げ花火のように一回で終わらせるのではなく、複数年上演を続けることで、作品の深さを増し、より多くの観客と出会うことを目指しています。また、そのことは作品づくりにかかるコストの軽減にもつながります。

「劇場へいこう！」では、「四度目の観劇、気づきがたくさんありました。子どもたちの成長とともに、彼らが蓄積していくものはこれから生きていく上での宝物もののひとつになると思います」「毎年観ており、今年は子どものリクエストで2回観ました」といった感想が寄せられました。

戦争で使われる武器の製造販売をする会社の乗っ取り事件を中心に、新自由主義がいかに非人間的であるかを描いたエドワード・ボンド作「男たちの中で」では、「(主人公を演じる)松田さんの演技は、社会の中で生きていく人間の一人としての姿が初演の時よりも浮き彫りになったと思います」「継続して上演されたことで素晴らしい成果を上げた作品でした」などと評され、繰り返して上演しているからこそその気づきや発展が認められると考えます。

地域の文化芸術の発展につながったかどうかは、本助成事業を行ったことによる目に見える変化がすぐに表れるわけではないので、自己評価をするのが難しいところですが、上記のことから、着実に地域文化芸術の発展につながっていていると感じています。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

NPO 法人劇場創造ネットワークは、公募型プロポーザル方式による審査を経て、令和 3 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日までの 5 年間に及ぶ座・高円寺の指定管理者に選定され、協定書に基づき管理運営を行っています。

PDCA の流れは、区に提出する当該年度の事業計画書を基本とし、外部委員で構成される懇談会による進捗状況の確認及び評価を経て翌年度への活動へとつなげています。また、現場レベルでは、観客や参加者によるアンケート、学校の先生によるアンケート、保護者へのヒアリング、担当スタッフによる事後評価、外部団体による調査など、さまざまなチェック機能を複合的に活用し、課題や改善点をスタッフ間で共有、事業の継続とさらなる展開へつなげています。

人材育成の取り組みとしては、2 年制の養成機関「劇場創造アカデミー」を設け、専門的知識を身につけるとともに、広く公共に向けて力を発揮できる人材の育成を行っています。本助成事業においても、「劇場創造アカデミー」の現役生や修了生がインターンやボランティアスタッフとして参加、また、修了生をスタッフとして雇用するなど、彼らに経験の場を提供することで、組織の活動が継続するための基盤づくりを行っています。

経営戦略としては、事業内容の充実と安定的な運営のため、全体の約三分の一を占める指定管理料に加え、地方公演の実施、助成金、補助金、協賛金（公、民、団体、個人）の獲得に努めました。今後の劇場の活性化と地域コミュニティの継続的な発展は、ひいては全体の発展と活力へとつながるのであり、財源確保の自助努力に加え、国からの継続的な支援が必要だと考えます。